科学と社会の協働

～気候変動コミュニケーションにおける実践例

東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
江守正多

Future Earthが始まったころに言っていたこと(1)

Co-productionの3つの論拠

1. Logic of accountability
   （社会のニーズに応える）
2. Logic of impact
   （社会実装のため）
3. Logic of humility
   （科学だけでは答えられない）

1,2は社会における科学のlinear model（科学が知識を生産→社会がそれを使う）を乗り越えていない。これで大丈夫か？

van der Hel (2016)

2017/7/28「Future Earth時代のWCRP」シンポジウムの江守講演より

Future Earthが始まったころに言っていたこと(2)

専門家が単純に「正解」を供給できなくなってきた

- 英国BSE問題（1996）
  BSEの人への感染→専門家不信
  「欠如モデル」から「対話モデル」へ
- イタリア ラクイラの地震（2009）
  専門家の委員会を過失致死で起訴
- 日本 福島第一原発事故（2011）
  「原子力ムラ」の「安全神話」批判
  低線量被ばく論争

2017/7/28「Future Earth時代のWCRP」シンポジウムの江守講演より

「気候変動アクション日本サミット2024」（2024/10/18）

セッション３　高まる非政府アクターの力を結集する

井田 寛子　気象予報士・キャスター
江守 正多　東京大学 未来ビジョン研究センター 副センター長
辻井 隆行　公益社団法人 日本プロサッカーリーグ 執行役員
横田 啓　　一般社団法人みどりのドクターズ 岡山協立病院総合診療科
モデレーター：松川 恵美　CDP Worldwide-Japan

https://japanclimate.org/news-topics/jcas2024/

気候危機に関する気象予報士・気象キャスター共同声明(2024/6/5)

「日常的な気象と気候変動を関連づけた発信」で命と未来を繋ぐ

気象予報士・気象キャスターの多くは気候変動に危機感を持っています。

天気予報の時間枠に限らず、私たちは「日常的な気象と気候変動を関連付けた発信」を目指し、気候変動問題解決に向けた命と未来を繋ぐ行動を加速させます。

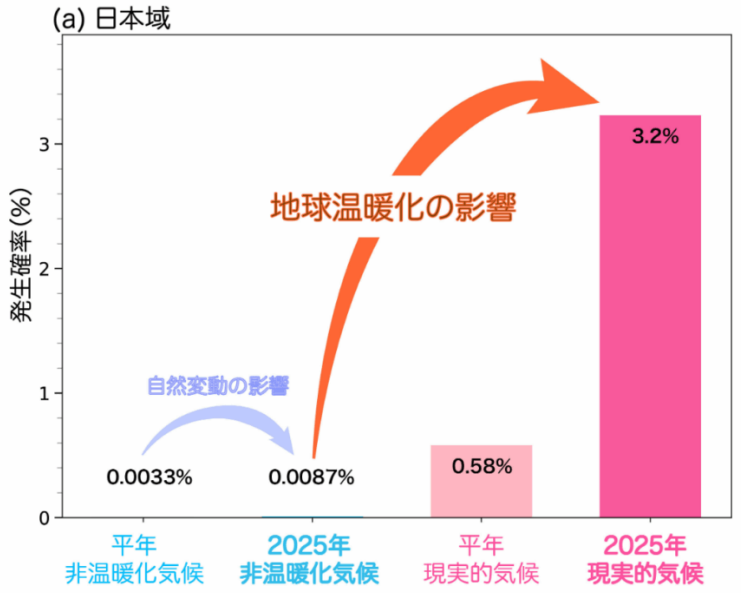
専門家や各メディアとの連携、協力を強化し、気象予報士・気象キャスターが気候危機解決への架け橋になります。

https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000128060.html

極端気象アトリビューションセンター(2025/5/20-)

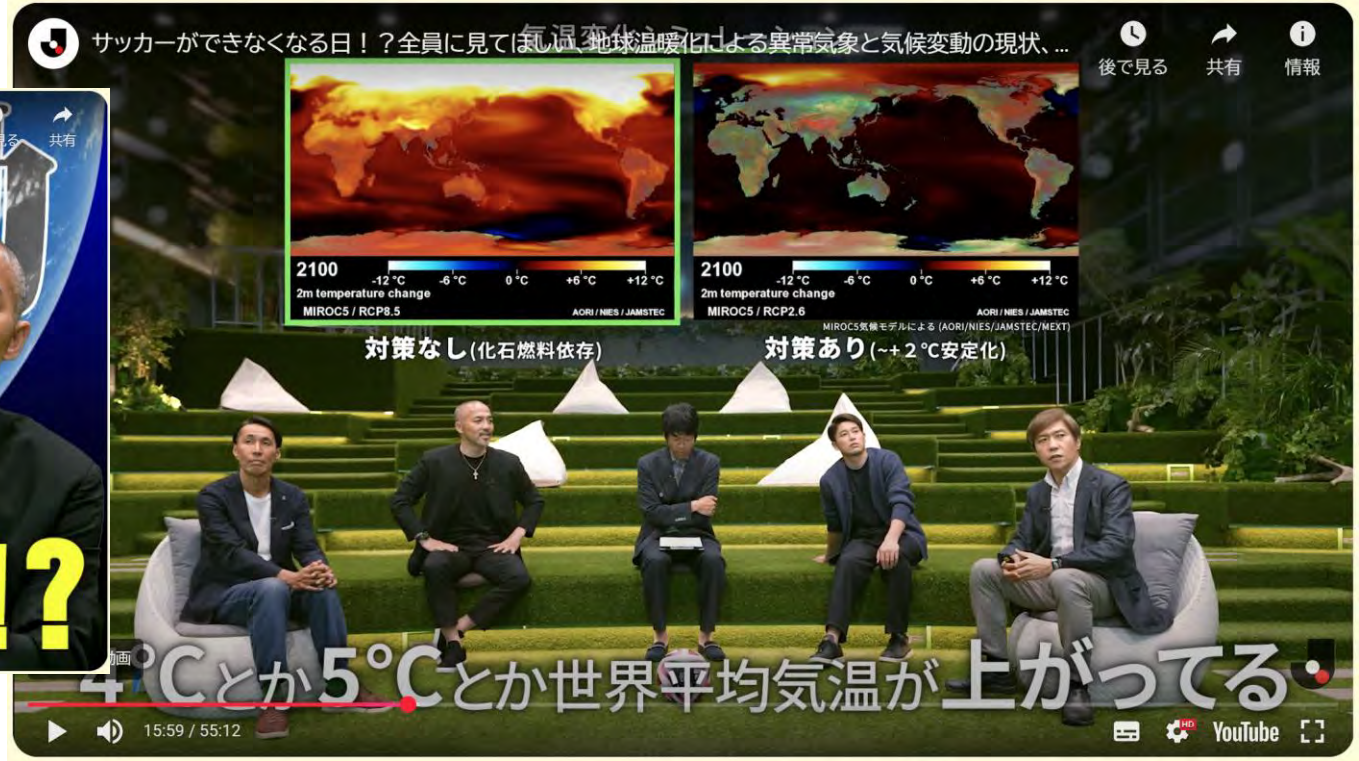
日本各地で発生した極端気象について、人間活動による地球温暖化やその他の気候変動がどの程度影響しているかを「イベント・アトリビューション」という科学的手法で分析し、結果を公表

2025年7月下旬の記録的高温
「地球温暖化の影響がなければ発生しなかったレベル」



https://weatherattributioncenter.jp/

Jリーグ気候変動動画



Ｊリーグ×小野伸二 スマイルフットボールツアー
「サステナトーク」
猛暑、大雨、台風などの異常気象をもたらす気候変動とサッカーの関係を知り、この先もサッカーを楽しめるように、小野伸二さんと一緒に気候アクションについてみんなで知ることから始めましょう。

https://www.jleague.jp/special/Jsmilefootballtour/

メディア×民間×スポーツ×科学×教育

気候アクションの
大切さを学べる
ショートアニメ

FUTURE KID
TAKARA

（全編無料公開）

https://sdgs.nhk-ep.co.jp/futurekidtakara

医療・保険分野の取組み

Green Practice

医療は、CO2の排出量が５番目に多い産業

医師たちの気候変動啓発プロジェクト

日本の有志の現役医師や医療関係者などが参画する、
気候変動による健康被害に関する啓発プロジェクトです。

みどりのドクターズは、本プロジェクトに協力をしています。

気候変動と子どもの健康被害

https://greenpractice-jp.studio.site/0

（一社）日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会（2024/9/17-）

気候科学の専門家と考える医療・介護業界に求められる気候変動対策とは

ゼロカーボン社会の実現に向けて積極的に活動するとともに、医療・介護業界およびその他関係業界のゼロカーボンへの取り組みを支援

https://zero-carbon-welfare.or.jp/

3事例の共通点

1. 気候変動リスクを強く実感している

   気象予報士は日常的に極端気象を扱い、スポーツ界は試合中止や熱中症リスクを経験し、医療界は患者対応や医療インフラ脆弱性を通じて危機を認識している。

2. 自らの活動で取り組める余地があるが、十分ではない

   各分野で再エネ導入や啓発活動、排出量見える化などが進みつつあるが、制度・資源・意識面で制約が残る。

3. 市民に対して発信力・影響力を持つ

   気象キャスターはメディアを通じて、スポーツ界はファン・地域社会を通じて、医療界は患者や制度を通じて広範に訴求可能である。

科学コミュニティの役割

1. 活動の必要性を根拠づける理論的支柱(ex, IPCC)
2. 普及啓発活動のパートナー
3. 排出削減活動や気候変動適応活動の理論的・技術的サポート
4. 各現場の活動からの学び・研究へのフィードバック
5. 行政・産業・市民等を含むネットワークの連帯の一員